

評議員紹介

- 赤沼陽子 学識経験者
- 井原哲人 学識経験者
- 大石隆寛 元保育園父母
- 柿田雅子 学識経験者
- 菊川勢津子 地域の福祉関係者
- 桐山研 緑丘保育園 園長
- 永井明代 社会福祉法人職員 O G
- 西原敬仁 元学童クラブ父母

理事紹介

- 垣内国光 理事長・学識経験者
- 伊藤亮子 多摩福祉会職員 O G
- 佐藤正 元保育園父母
- 谷まち子 こぐま保育園 園長
- 玉田和良 会社役員
- 中津川弘 元保育園父母
- 安川信一郎 上北沢こぐま保育園 園長
- 橘田美千代 学識経験者 (保育学)
- 長谷川保夫 財務諸表を監督し得る者

2017年度 今後の予定

新人研修	2018年2月24日
理事会	2018年2月7日 14時より
	2018年3月10日 14時より
評議員会	2018年3月31日 14時より

法人ニュースの 発行によせて

評議員 赤沼陽子

四月から施行される保育所指針の改訂、保育園の待機児問題、保護者の方たちの労働条件はますます厳しくなり子育ての喜びを感じる余裕すら奪っていきます。保育者不足も深刻です。

上げればきりが無いほどの問題山積みの保育現場で子どもの人権と発達を保障する保育をと頑張っている保育者も疲弊しています。経営側と現場の保育者が保育

の方向を明確に持ち、共有した保育園創りが早急に求められています。その要になる法人ニュースの発行。期待します。



理事 中津川弘

法人ニュースの発行を喜ばしく思います。その活用によってどういう保育をしたいのかを考え知恵を出し合い解決していく仲間の結びつきに繋がっ

ていくことを期待します。また、「待機児童」「保育士不足」「保活」等、頻出している保育をめぐる問題への節目節目での法人からのメッセージの共有や、父母や地域とつながる役も期待します。

法人の保育方針の実践を豊かにし、父母の安心をサポートしていけるよう、一歩一歩焦らず発行を継続していく努力を職員と共に卒園児の親として私もできればと思います。



法人だより たまふく



きもちつながる、想ひひろげる。

連絡先
〒155-0031
東京都世田谷区北沢
2-36-9
ベル下北沢4階
Tel.03-6804-8345
Fax.03-6804-8347

新年あけましておめでとうございます

法人ニュース発行にあたって
浦辺史先生を語る

多摩福祉会理事長・明星大学教授
垣内国光

懸案だった法人ニュースが発行できる運びとなつてこんなに嬉しいことはありません。これまでわが法人を支えて下さった皆様に今日の法人の姿を伝えなければと思いつつ、ここまで遅延してしまいました。

1972年に浦辺史初代理事長によって本法人が設立され、翌1973年に多摩ニュータウンの一角にこぐま保育園が創立されました。法人設立45周年を迎えています。現在、本法人は4保育園3学童クラブを擁する中堅の社会福祉法人に発展して参りました。浦辺史先生は今日の法人の姿を天国からご覧になつてどのように仰るのか気が



浦辺先生はそうした子どもたちに寄りそい、辛かったら

かりです。

浦辺史先生は、名古屋市にあった日本福祉大学学監(今日で言う学長)を勤めながら本法人を設立されました。浦辺先生は、終生、日本の子どものことを考え続けた先生でした。先生は戦前豊島師範(現在の東京学芸大学)を卒業され、多摩地域の小学校の訓導(先生)をされておられました。貧しくて梅干弁当さえ持つてこられない子どもたちが、昼休みの鈴が鳴ると校庭の片隅に集まって空腹を抱えて昼休みが終わるのを待っていた姿をみて、教師としてずいぶん悩まれたそうです。先生が手弁当で握っていったおにぎりなどではどうている間に合わない子どもたちがたくさんいたのです。

「つらい」と書いていい、腹一杯ご飯が食べたかったら「思いつきたべたい」と書いていい」と作文教育に情熱を燃やしました。しかし、当時は皇国教育のまっさなかです。なによりお国のために命を捧げることのできる教育をすることが教師の使命でした。子どもの幸せなど後回しでした。浦辺先生はその子どもたちが書いた作文とある雑誌に投稿した廉(かど)で投獄されたのです。戦後、浦辺先生が述べられておられました。

「牢屋のなかにいるとろくに食べ物を与えられないから腹が減つてね。食べ物のことばかり思うんですよ。書くこともできないので、貧しい食事ではえられた魚の骨を保存しておいて、差し入れされた本の余白に自分の思いをその骨で書くんです。なにになが食いたたい。」

そのご本を見せていただいたことがあります。光に向かつて本を斜めにすかして見なければ 見えない文字でした。浦辺先生の願ひは日本の敗戦によって実現しました。「主権は国民にある」「教え子を二度と戦争に送らない」との願ひがこもった日本国憲法によつてです。叶ったもう一つがこぐま保育園です。人々の願ひに込めよ、世のため人のために生きよ、現状に甘んずるな、使命をもって実践せよ、子どもたちのために闘え、とどまるな前進せよ、と。浦辺先生のミッション(使命)を思うならば、この法人はどうあるべきか常に考え続けなければなりません。実践の主体者として議論し挑戦し続けなければなりません。その法人としてのミッションがなければ、法人としての存在意義はないといつても過言ではありません。

卒園卒クラブの皆様、ご父兄の皆様、地域の皆様、法人役員の皆様、そして現職員ならびに職員 O B、O Gの皆様、この法人に関わりのあつたすべての皆様、これまで本場にありがとうございました。そして、これからも本法人をお支え下さい。浦辺先生の遺志を引き継ぎともに歩み続けたいと思います。

子どもが自ら学び共に育ち合う保育の創造を

～壊してはいけない! 信頼・安心・共感・平和のゆりかごを～



表紙デザイン：原田 惟 (向山保育園)
冊子編集協力：岡田 織 (法人事務局)

当日は台風という事もあり、足元の悪い中 150 人以上の方に足を運んでいただきました。午前の全体会は、永山 JTB ホールにて行いました。関東学院経営学部教授 中西新太郎先生をお招きし、【保育指針改訂】を巡り、お話しいただきました。これからの保育の在り方についてとても考えさせられるお話でした。実践報告としては、貝取学童クラブ、上北沢こぐま保育園、こぐま保育園、法人本部より行いました。

午後は、こぐま保育園に会場を移し、分科会が行われました。今回は、30 もの提案があり、10 分科会に別れて討議しました。子どもたちと共に育ち合う実践交流ができました。「もっと討論の時間が欲しい」と感想が寄せられるほど充実した時間になりました。この合研は、法人研修委員会 (伊藤亮子・青木泉・井原明子・笠井智文・木本美春・谷本紗恵・針尾政幹・深谷道子) が中心になって、準備し、開催しました。

成功のために支え、提案してくださった皆様、そしてご参加くださった皆様本当にありがとうございました。

理事長挨拶

全体会報告

基調報告です



中西新太郎先生
とても深く、そして分かりやすい講演
ありがとうございました。



第2分科会
夏の遊びや環境設定、保護者
対応まで幅広く議論。子ども
目線での話し合いました。



第6分科会
主体性は本当にやりたいこと
から伸びていく。大人同士の意見
交換も大切になっていく。



第9分科会
特別な配慮
についての理解
が大切。適切な
支援を知ること
で可能性が
広がる。



第10分科会
法人運営から日々の保育
まで広く討議。地域連
携、小学校との連携も課
題に上がりました。



第3分科会
遊びの仕掛けの工
夫から。子ども
自身が充実して楽し
むことが1番!



午後の分科会
分科会に分かれて、各施
設の取組や実践につい
て話し合いました。

第8分科会
課業をはじめ目的
を持った計画の中
から育つ姿。いつ
でも子どもは学び
の主体者。



第5分科会
保健を含めて乳児の保
育全般に活発に意見交
流。乳児部会もやりたい
ね～。

第1分科会
食事内容を工夫して食べる
機能を育てるという事、他に
も食事がどれだけ大切かを
伝えたい。



第4分科会
異月齢、異年齢で
の交流。あこがれ
の心から広がって
いく子どもの関わり
や姿に感動。



第7分科会
虫の命に支えられた子ど
も達の成長。興味を持っ
た時の力ってすごい!

